

第44号 平成27年12月28日発行 編集局:JA山口中央会

集落営農法人だより



JA グループ山口と山口県集落営農法人連携協議会との意見交換会を開催

山口県集落営農法人連携協議会は11月10日、県JAビルにおいて、JAグループ山口と県協議会役員との意見交換会を開催しました。意見交換会にはJAグループ役員など37名が出席し、活発な意見交換がされました。

県協議会の山本会長は、「法人間連携の取組みや、新規就業者の確保・育成に向けたICTシステムの構築などについて検討・協議している。昨今の農業をとりまく情勢は厳しいが、法人経営の継続をかけて、集落の力を結集して様々な経営課題に取り組んでいく。このような時こそJAグループとしっかり連携し、難局を乗り切っていきたい」とあいさつ。

JA山口中央会の山本会長からは、「TPP大筋合意の影響が懸念されるなど厳しい農業情勢である中、JA山口県大会で『農業者の所得増大』と『農業生産の拡大』を最重点分野とする大会議案を決議・実践することとしている。生産現場の思いとJAグループに対する期待を受け止め、法人と一体となり、山口県農業の発展を実現したい」とあいさつがあった。

県協議会からはJAグループに対し「所得増大」、「生産拡大」「地域活性化」の3つの視点における支援について要望。

それに対し、JAグループからは、農産物のブランド化・6次化・複合化や、応援プログラムの活用による生産コストの削減に向けた取り組み、新規就業者等の人材確保や法人の広域化への支援、また、地域営農ビジョン運動の展開による地域活性化への貢献などの具体的な提案がされた。



4県（山口・広島・島根・大分）集落営農法人連絡協議会サミットへ参加

12月8・9日、広島県東広島市にて、山口、広島、島根、大分の4県合同主催で、4県集落営農法人連絡協議会サミットを開催しました。

「これからの集落法人経営の展望」をテーマとし、各県の集落営農法人、県・JA等関係機関職員約250名が参加しました。



東広島の（農）ファーム・おだからは、講演や現地視察があったほか、機能性成分GABAを多く含む米「GABAライス」を製造する（株）サタケの現地視察を実施しました。

また、各県の事例報告として、山口県からは（有）名田島農産より、米価下落に対応した取り組みについて報告をいただきました。

サミットは最後に以下の宣言を採択し、次回開催引き受けである本協議会山本会長よりあいさつがあり、閉幕いたしました。



【4県サミット宣言】

- ①集落法人等の先進的な取り組みを積極的に学び、経営力強化に向けた弛まぬ努力を行っていく。
- ②中山間地域の不利な条件克服に向け、島根県、広島県、山口県、大分県の4県による連携を一層強化していく。
- ③取り組みの成果を積極的に発信し、中山間地域の実態に即した政策の提言を行う。

「百姓鍊磨の会」農大祭への出展

若手法人就業者サークル「百姓鍊磨の会」は、11月3日に、山口県立農業大学校で開催された農大祭へ出展しました。

県産食材を使ったお好み焼きを販売し、当日は、目標250食を上回る269食を売り上げました。



メンバー所属法人の米粉を使用した「百姓鍊磨の会」オリジナルのお好み焼きは、お客様にも大好評でした。

今年度は新たなメンバーの参加もあり、活動を通じて若手就業者同士の交流も深まりました。